

開拓維新記

印旛沼の水土に挑む開拓精神



挑戦と開拓精神

ここに印旛沼開発の歴史を概括した年表を記した。挫折と挑戦、試行錯誤を重ねながら前進してきた歴史である。

印旛沼の歴史を紐解くとき、その後の進む道に大きな影響を与えたのは、徳川幕府が行った「利根川東遷」といつてよいであろう。

利根川東遷は、現在の隅田川筋を下って江戸湾に流れ込んでいた利根川の流れを銚子方向に変える流路変更の大作である。

江戸を水害から守ること、新田を開発することも目的として推察されているが、主目的は、江戸に関東一円と東北地方の物資を集散する運輸体系をつくることであった。

もともと印旛沼はその成り立ちから、鬼怒川（利根川）の遊水地であった。幾度となく襲う洪水は、印旛沼とその周辺に大きな被害をもたらしたが、人々はこの地にとどまり、洪水との闘いに果敢に挑んだ。

江戸期には水害防止、舟運、開墾を目的に印旛沼の開発として、享保、天明、天保の三つの堀割工事が実施された。それぞれの工事は挫折をみるが、そこから人々は立ち上がる。洪水と闘う印旛沼の風土は旺盛な開拓精神を生み出し、その志は明治以降の印旛沼開発に道をつけた。積年の願いは、戦後の「印旛沼開発事業」に至ってようやく実現を見る。いま、印旛沼は水管理のもとで、工業、水道、農業の用水源として、また、洪水調整の役割を果たしている。そして、新たな課題として水質保全や水環境の改善といった流域再生に取り組みながら、地域と共に歩む印旛沼の未来を志向している。印旛沼の水土に挑んだ開拓精神がここに引き継がれる。

1594	文禄3年	利根川東遷が始まる
1621	元和7年	利根川と鬼怒川支流の常陸川を結ぶ赤川通及び赤堀川の開削開始
1654	承応3年	利根川東遷が完成
1666	寛文6年	布佐・布川を締め切り、新利根川が疏通も同9年廃川
1676	延宝4年	将監川の開削
1695	元禄8年	鉄牛和尚が老中に印旛沼干拓を献策
1724	享保9年	享保の堀割工事が始まるも資金難で挫折
1728	享保13年	江戸開府以来の洪水
1742	寛保2年	江戸時代、最大規模の大洪水
1782	天明2年	天明の堀割工事
1783	天明3年	浅間山大噴火
1788	天明6年	天明の飢饉始まる（1788年）
1843	天保3年	江戸開府以来の大洪水
1843	天保3年	田沼意次の罷免、堀割工事中止
1870	明治3年	天保の大飢饉（1838）
1890	明治23年	天保の堀割工事が始まるも挫折
1896	明治29年	利根川大洪水
1900	明治33年	明治維新後最大の洪水
1910	明治43年	印旛沼未曾有の大洪水
1921	大正10年	河川法制定
1926	大正15年	利根川改修工事が始まる
1927	昭和2年	利根川流域未曾有の大洪水
1935	昭和10年	農務省、印旛沼手賣沼土地利用計画を樹立も未着工
1938	昭和13年	吉植農場の開墾始まる
1939	昭和14年	農林省、印旛沼手賣沼大規模開墾計画を樹立するも未着工
1941	昭和16年	利根川放水路開削工事が計画、競争で中止
1946	昭和21年	手賣沼、印旛沼、佐原、小貝川一帯が大洪水
1950	昭和25年	国営印旛沼手賣沼干拓事業が決定
1953	昭和28年	印旛沼手賣沼第1次事業計画
1954	昭和29年	印旛沼土地改良区設立
1956	昭和31年	土地改良法の改正に伴い印旛沼、手賣沼を分離する基本方針
1963	昭和38年	国営印旛沼干拓土地改良事業第1次改訂計画が事業確定
1969	昭和44年	印旛沼干拓土地改良事業第2次改訂計画
1980	昭和55年	印旛沼干拓土地改良事業が印旛沼開発事業として継承
2001	平成13年	印旛沼開発事業 完成
2010	平成22年	角来地区で大区画ほ場 印旛沼開発施設緊急改築が着工 印旛沼流域水循環健全化会議発足 印旛沼二期農業水利事業開始